

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4077566号
(P4077566)

(45) 発行日 平成20年4月16日 (2008. 4. 16)

(24) 登録日 平成20年2月8日 (2008. 2. 8)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 5/487 (2006. 01)

B 6 5 D 5/48

A

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-344211
 (22) 出願日 平成10年12月3日 (1998. 12. 3)
 (65) 公開番号 特開2000-168768 (P2000-168768A)
 (43) 公開日 平成12年6月20日 (2000. 6. 20)
 審査請求日 平成17年1月6日 (2005. 1. 6)

(73) 特許権者 000115980
 レンゴー株式会社
 大阪府大阪市福島区大開4丁目1番186号
 (74) 代理人 100070253
 弁理士 渡辺 弥一
 (72) 発明者 石川 淳生
 大阪市福島区大開4丁目1番186号レン
 ゴー株式会社中央研究所内

審査官 渡邊 真

(56) 参考文献 実開昭49-120630 (JP, U)
 実開昭61-172014 (JP, U)
 実開昭58-014317 (JP, U)
 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 仕切付きトレイ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

トレイの一側板上縁から、上片、側片及び下片からなる断面コ字状の巻き込み縁であって、前記上片と前記側片とが鋭角を形成するものを、一定間隔毎に、溝を介して、前記下片が底板に固定できるように設け、前記底板に切り込んだ仕切板を、その一端部が前記巻き込み縁の側片を押して通過することにより立設できるようにすると共に、他側板上縁からフラップ板を折り曲げてなることを特徴とする仕切付きトレイ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば P H S 電話機等の商品又は部品を仕切板を介して多数個収納できるようにした仕切付きトレイに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、この種のトレイは、図4に示すように、仕切板1及び2に設けた切込溝を介して挿入し仕切を組み立てたのち、トレイ(図示しない)に入れ、各仕切板毎に商品又は部品を収納していたが、仕切の組み立て、トレイへの挿入に時間がかかる上に、板紙又は段ボールの材料代が多くかかる欠点があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

10

20

本発明は少ない材料費で、トレイと仕切が同時に、短時間で組み立てられる仕切付きトレイを提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明仕切付きトレイは、上記課題を解決するため、図示するように、トレイの一側板14(1)上縁から、上片15a、側片15b及び下片15c(1)からなる断面コ字状の巻き込み縁15であって、前記上片15aと前記側片15bとが鋭角を形成するものを、一定間隔毎に、溝15dを介して、前記下片15c(1)が底板10に固定できるように設け、前記底板10に切り込んだ仕切板11を、その一端部111が前記巻き込み縁15の側片15bを押して通過することにより立設できるようにすると共に、他側板14(2)上縁からフラップ板16を折り曲げてなるものである。

10

【0005】

本発明において、巻き込み縁15は、仕切板11が立設されるとき、その一端部111が側片15bを押して通過できるように、上片15aと側片15bのなす角度が鋭角をなすように形成される。

また、各巻き込み縁15の下片15c(1)は連続して一体的になるように形成し、その両側を各内側板12に差し込めるようにすることが好ましい。

また、突片15c(2)は、底板10上に設けた長孔15c(3)に差し込んで固定できるようにされる。

【0006】

20

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態が図1乃至図3に示されている。

本実施例の仕切付きのトレイは、底板10、4個の仕切板11、1対の内側板12及び外側板13、側板14(1)及び14(2)、5個の巻き込み縁15、フラップ板16、4個の差込片17からなっている。

【0007】

本実施例の展開図は、図3に示すように、長方形の底板10に折線101、切目112及び手指穴102を介して4個の仕切板11を立設できるように切り込み、両側に、それぞれ、内側板12の2個の突片121を嵌着する2個の長孔103を設けると共に、折線131及び2本折線132、133を介して外側板13及び2個の突片121を有する内側板12を連設し、上下端に折線141、141を介して側板14(1)及び14(2)を連設し、一方の側板14(1)には、折線151を介して上片15a、折線152を介して側片15b、折線153を介して下片15c(1)を連設すると共に、折線151と折線153の間に、一定間隔毎に、組み立てたとき溝を形成する切欠き穴15dを4個設けている。

30

他方の側板14(2)には、折目と切目とをほぼ一線上に設けた折り曲げ線142を介してフラップ板16を連設している。

また、側板14(1)及び14(2)の両側には、それぞれ差込片17を連設している。

従って、図1及び図2に示すように、側板14(1)を立設して、上片15a、側片15b及び下片15c(1)を断面コ字状にかつ、上片15aと側片15bとが鋭角となるように折り込んで巻き込み縁15を形成すると共に、側板14(2)を立設してフラップ板16を直角に折り曲げ、外側板13及び折り込んだ差込片17及び17に内側板12を巻き込んで、2個の突片121をそれぞれ長孔103に嵌着させて側壁を形成する。

40

同時に、4個の仕切板11を各手指穴102から立設して断面コ字状の各巻き込み縁15を形成し、下片15c(1)の両端を底板10と内側板12の下縁に差し込んで固定し、その各側片15bを押して各仕切板11の一端部111を通過させることにより、各仕切板11を側片15の端部に係着させれば、図1に示す本発明仕切付きのトレイが出来上がる。

【0008】

50

また、本実施例のトレイは、図 3 に示すように、下片 1 5 c (1) の代りに、側片 1 5 b の先端に、仮想線で示すような突片 1 5 c (2) を連設して、底板 1 0 上の仮想線で示す長孔 1 5 c (3) に差し込んで固定し、断面 L 字状の巻き込み縁 1 5 をそれぞれ形成させることができる。

【 0 0 0 9 】

【発明の効果】

本発明によれば、トレイと別個に用意された仕切とからなる従来品に比べて、紙代を大巾に節減できると共に、組立時間を大きく短縮できる。

また、仕切板毎に巻き込み縁と溝とが形成できるので、P H S、携帯電話機等の突起のある精密機器の多量収納に適する上に、構造強度が強いので、箱内に何段でも積み重ねできる利点がある。

10

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施形態を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の裏面からみた斜視図である。

【図 3】 図 1 の展開図である。

【図 4】 従来例の仕切を示す斜視図である。

【符号の説明】

1 0 底板

1 1 仕切板

1 1 1 仕切板の一端部

1 4 (1) 一側板

1 4 (2) 他側板

1 5 巻き込み縁

1 5 a 上片

1 5 b 側片

1 5 c (1) 下片

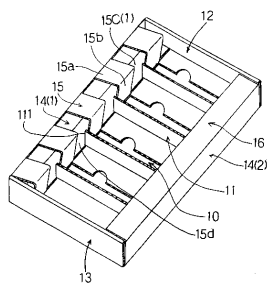
1 5 c (2) 突片

1 5 d 切欠穴 (溝)

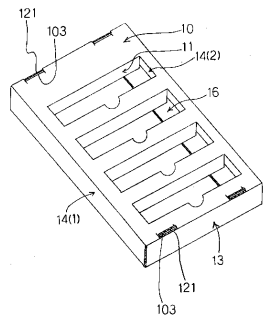
1 6 フラップ板

20

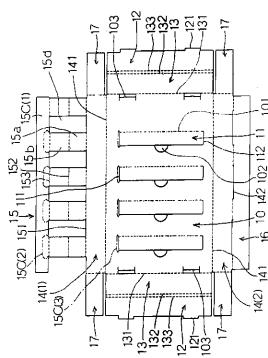
【図 1】



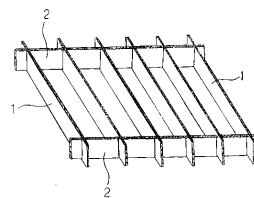
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B65D 5/00